

秀吉以智謀築得墨股城

属懇蜂湧賀

蜂湧賀當用援泥上敗敵

属君賜感帖

繪本豊臣勳功記二編卷之二

八功舍德水刪補

織田信長上洛見將軍家屬義濃別攻

山へ高き小ゆらぎをも。仙あまが相河を。水の深れ小ゆらぎをも。龍
生きる雲氣のとくに寶清湖城を當とも能からし。幸と隣
國小遠うを。遠道從前の企望とび。達至せまくもがく。起上洛の發通
じて。八余人の勇士と率與し。既小糸名小差とまへ。鶴川一益
出迎へ城中入奉り。食應。參められけり。織田殿歎也。進ま
き。一益と嘗て。舊冬。公東の主功と。あまくび。勞ひ。ひ。猶ほ勢の
え。一益を。北畠と壓也。徳備と嚴密小縛合す。黄金鑄のち刀一口。身自ら
國司北畠と壓也。徳備と嚴密小縛合す。黄金鑄のち刀一口。身自ら
一益小照へ。ひ。急ぎ。往く途あまく。收。業名城を。縛る多ひ。最消やうる。轟

